

明倫短期大学学会報告

明倫短期大学学会月例研究会抄録

平成14年度4月よりスタートした本研究会は今年度で3年目を迎えた。依頼講演では2テーマの教授就任講演と、英国学位取得記念講演があり、一般講演では歯科技工士学科、歯科衛生士学科、保健言語聴覚学専攻と附属歯科診療所から9テーマが集まった。いずれのテーマも専門性を持ちながら、教員の共通理解を大切にするわかりやすい発表内容であった。以下に、抄録を掲載する。

(文責 野村章子 教授 歯科技工士学科)

第7回(通算第90回)：2004年4月22日(木)

Birmingham 大学Master of Arts コースにおける研究の紹介

廣瀬 浩二(助教授, 歯科衛生士学科)

イギリス第2の工業都市に立地するBirmingham 大学で、Dr. Sada Daoudの指導のもと“EFL Reading Strategy Use and Instruction at a Japanese College”の題名でMaster of Arts in Teaching English as a Foreign or Second Language (TEFL/TESL)の学位を取得した。在籍したのは“Open Distance Learning”のコースである。このコースは、5つの必修module(言語指導法、第2言語習得、語彙、談話分析、社会言語学)と1つの選択module(コーパス言語学を選択)及び学位論文から成る。各moduleは4,000語の論文で評価され、学位論文は12,000語の論文で評価される。評価者は各moduleごとに異なる。詳細なフィードバックが行なわれ、自分の能力を客観的に知ることができる。

第8回(通算第91回)：2004年5月27日(木)

歯科医療面接技法の開発と研究

山田 隆文(教授, 歯科衛生士学科)

現在、医学教育の現場で、医療面接教育が始まりつつある。カウンセリングなどの面接技法などから導入されたものであるが、まだ、歯科医療に合致した総合的な面接技法の開発や、教育のシステムは確立していない。医療面接が歯科医学教育に導入された経緯から、医療面接に必要な知識や背景、教育の方法、今後の課題などについてのレクチャーを行った。

第9回(通算第92回)：2004年6月24日(木)

歯科技工士学科実習室における照度環境の整備に関する研究

五十嵐雅子(講師, 歯科技工士学科)

歯科技工士学科実習室の照度環境の改善を目指すため、実習室の照度環境の調査を行ってきた。今回は、改善後の実習室における照度環境の調査結果と現在の2年生のアンケート結果も加えて、本学の実習室の照度環境が作業しやすい状況なのかを検討した。その結果、改善後の実習室における照度環境を確認することができ、照明器具の選択、正しい設置や取り扱いによっても大きな影響があることがわかった。また、環境整備に対する学生の意識を高めることができたと思われる。

人工内耳装用者のリハビリテーション における言語聴覚士の役割

大平 芳則(講師, 歯科衛生士学科専攻科
保健言語聴覚学専攻)

人工内耳は、内耳障害による高度の難聴を持つ人に対し、外科的に側頭骨と内耳に植え込むことにより聴力を回復させる人工臓器である。植え込み後は個々の聴こえの状態に合わせて、専用のインターフェイスとソフトウェアを使い人工内耳を調整する必要がある。これをマッピングと呼ぶ。言語聴覚士はこのマッピングの他、装用指導、聞き取り訓練、聴取能の評価、家族指導などの業務を行う。症例を提供するとともに以上の内容を報告した。

第10回(通算第93回)：2004年7月22日(木)

補綴前の成人歯周矯正治療

花田 晃治(教授, 歯科技工士学科)

正中離開を主訴として来院した場合、下顎第一大臼歯抜去後、そのまま放置されており、咬合が著しく深くなり正中離開を引き起こしている。下顎第一大臼歯の欠損部の放置が、隣在歯の傾斜、対合歯の挺出、切歯の唇側傾斜などをもたらし、いわゆる咬合崩壊を来している。歯周疾患の増悪や顎関節症を伴っていることがある。こうした症例ではまず歯周組織の管理を十分に行った上での矯正治療が必要であり、それによって最終補綴が完全になる。こうした一連の行為が有機的に結びつけられ体系化されたものが包括歯科医療のなかでの歯周矯正治療である。